

移情閣だより

No. 92



竹中信清 画

輝こう移情閣友の会

移情閣友の会会長 林 同春

新年明けましておめでとうございます。「友の会」の会員各位には益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、旧年中、「友の会」の運営に際しては、会員各位のご支援ご協力により、全ての進行事をスムーズに実行することが出来ました。又昨年9月には82ヶ国・地域に居住する華僑華人達がこの美しい神戸に集い、第9回世界華商大会を開催され大成功裡に閉会されました。ご同慶の至りです。なお、その節、大会参加者の大多数の人々が孫文記念館にご来訪され、立派な記念館と館内に展示されている展示品を参観して帰国されました。孫文と神戸との関係を世界にアピールできることは大会の一責任者として心から喜んでおります。

特に、大会成功に際しては、「友の会」の絶大なるご支援ご協力が大きな力になっておりますことは申すまでもありません。ここに「友の会」の会員各位に対し、今一度厚くお礼申し上げます。

長い中日間の交流史のなか、この

ような古句があります。「黄河の水は江戸に通じ、珠穆の峰は富士山に通じる」。この二つの句は、中日両国の深い繋がりをよく象徴しています。両国人民は二千年余の友好往來の歴史を持っております。日本はアジアの一員です。中国、朝鮮は一衣帯水の関係にある隣の国です。中国、朝鮮との友好関係こそ、第一義的に尊重され、維持発展されなければなりません。そのために、中日両国人民がお互いに尊敬しあい、理解し合える関係をしっかりとつくっていくかなければなりません。

かつて孫文はこの神戸において、「日本は王道を歩むのか、覇道を歩むのか」と問いかけました。今、日本は再び同じことを問われています。今こそ日本は、アジアの人々、世界の人々から尊敬される王道を歩まねばなりません。

移情閣友の会が、ささやかな力であっても、会員一人一人の中日友好の熱い思いを大切にして、中国との中日友好のために力を尽くして

いただきたいものです。

ここに本年も相交わらぬ交誼を深め、併せて皆々様のご健勝ご多幸をお祈りいたします。

友の会よりのお知らせ

2008年新春のつどい

— 二胡の調べとともに —

日時 1月27日(日)12時～14時

場所 ポートピアホテル「聚景園」

会費 6,000円(酒代は別料金)

定員 30名(先着順、1/20まで)

ご希望の方は事務局(FAX:078-785-

344)までFAXでお申込下さい。当日

全員500円程度のお年玉を持参下さい。

新大極拳同好会の活動開始

日時 5月より毎週土曜日

13時～16時

神戸大極拳協会より指導員をお招きし、練習場所を孫文記念館(移情閣)庭園として活動を開始する予定です。(会費は月3,000円)閉会後は事務局(電話:078-783-7172)まで。

2008年を飛躍の年に

英文記念館館長 安井三吉

友の会の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年は、日中国交正常化35周年、兵庫県東区友好提携25周年、神戸開港140周年そして第9回世界華商大会と重なり、英文記念館としましてもシンポジウムや特別展の開催、展示のリニューアルなどいくつかの大きな仕事を一挙にやりとげた一年でした。友の会の皆さんは、こうした行事はむろん、館の日常の運営や周辺の花壇の手入れなど多方面にわたってご支援下さいました。心よりお礼申し上げます。

今年は、いよいよ北京オリンピックです。同時に日中平和友好条約締結30周年の年でもあります。アジアでのオリンピックは、1964年に東京、1988年にソウル、そして今年が北京と3回目ですが、いずれも東北アジアでの開催です。東南アジア諸国連合、ASEAN10+3の「3」が国です。これは何に由来するものか、考えてみるに値することではないでしょうか？

さて、この春には記念会の基礎を強化するために「賛助会」の立ち上げが予定されています。

また、秋には英文に関連した

シンポジウムの開催を企画しております。リニューアルなど昨年の成果を基礎にして、参観される方に英文と呉錦家の生涯と事蹟、とくに神戸とのかわりをより深く理解していただけるよう、改革に努めたいと思っています。いろいろな場面で友の会の皆さんのパワーをお借りしなければならないことが起ることと思います。

ここに本年も相互わらぬ交遊を深め、併せて皆様のご健勝ご多幸をお祈りいたします。

2008年元旦

黄山旅游

中国語講座 研究クラス 中島悦子

我这几年没有机会去中国旅游。这次跟同学们一起去“黄山 宏村 杭州五日游”，能够渡过一段非常舒暢的时间，使我感到很高兴。

九月二十九日从关西机场出发。飞机准点到达杭州萧山机场。两位中国导游和两辆游览汽车迎接了我们旅游团。那天参加的游客一共有三十九人，因人很多，分成了两个班。我们是第二班。我们的导游是位三十岁开外的男子汉。沉稳干练。他自我介绍说：三十二岁，未婚。游览车往黄山市开出不久，我们渡过了钱塘江，并从车窗观赏了六和塔。我首次来这个地方，所以目睹的一切都觉得很新鲜。导游向我们介绍浙江省和杭州的历史及现状。

第二天我们坐游览汽车去“云谷寺”索道站。汽车进入山区后，到处看到茶园。有的地方从山顶到山脚全部是茶园。导游说：“这一带一天中的最高气温和最低气温的差别较大，而且常常下大雾，所以能够生产出高档的茶叶。”令我更感兴趣的是在峡谷的到处种植着白色的菊花。据说这种白菊花对治感冒很有效。中国人喜欢喝菊花茶。导游还说：“这一带干农活的多是女的，男人都去城市打工了。”

到达“云谷寺”索道站后，我们停留了一个小时左右，然后坐缆车去“白鹅岭”。下了缆车后，朋友和我把大的背包托给搬运工人送到那天要投宿的海鲜饭店去。费用是五十块一个。背上的东西少了，我开始用轻快的脚步走山路。

我们首先去了“始信峰”，然后去了“曙光亭”和“清凉台”。在那一带看到的风景真是一副美丽的山水画。从深深的谷底耸立的山峰一个接一个地矗立，山壁陡峭。山峰的岩石长年被风雨敲打，形成了奇特的形状。有些地方从岩石的裂缝里长出青绿色的小松树。

下午我们前往“飞来石”和“光明顶”。非常遗憾的是到了山顶的时候因雾大，没有看到周围的风光。我只好拍了几张照片作为登“光明顶”的纪念。

在黄山的第二天，凌晨我被窗外的吵声惊醒。看看手表，已经四点半了。如果晴天的话，我们要去“清凉台”观



看日出。我的膝盖由于前一天登山疲劳而隐隐作痛。可是四位同学都要去，而我一个人不去是可笑的。我打着手电紧跟大家出发了。渐渐地我落在了大家的后面。到达“清凉台”的时候那里已经挤满了人，可是周围一个认识的人都没有。我在人群的后面等着日出。那天在黄山上看到的日出对中国人来说也许是终生难忘的吧。因为那天是国庆节。

回饭店吃了早餐后，我们经“排云亭”去丹霞索道站。然后坐缆车下山。“排云亭”是观赏落日的好地方。前面有东西方向的大峡谷，峡谷两侧的山峰又高又险峻。奇妙的岩石和翠绿的小松树点缀着那参差不齐的山峰。想到就要告别黄山了，我意犹未尽地在那里拍了一些照片。坐缆车下山的时候，我们看到了黄山的北面。那里也耸立着各种各样姿态的山峰。我再次深深感到大自然的创造力。那些地方好像还没有开发。那里迄今为止还没有留下过人类的足迹。看着看着我想象着也许只有长上了翅膀才能靠近那些山峰吧。

黄山真是神般的山峰。(完)



「香港経済」に学ぶ～ある銀行員の昭和史を巡って～

中国文化同好会会員 大和 齊

先日、中国文化同好会で、表面のようなお話をさせていただきました。ある銀行員が横浜正金銀行(後の東銀、現三菱東京UFJ銀行の前身)の香港・神戸・トアロード支店が外国為替の仕事をしていました。香港陥落時の手記を下書きにして、パワーポイント50コマという長時間で、さぞお聞き苦しく、皆様にはお疲れ様でしたと申した心境です。

戦前の通貨戦争を織り交ぜて、「香港返還から10年」と、「アジア通貨危機から10年」を主なテーマにいたしました。先日の華商大会の盛上りに示されたように、中国経済は、世界的な規模で大きな影響力を持つに至っています。香港の潜在競争力ランキングを「世界1位」と評した日経調査の結果も、そのような章権ネットワークの近代化と無関係ではないようです。同じく観光都市、貿易港の神戸にとっても、国際金融センター機能を含む香港のダイナミズムは大いに参考になると結びました。

「政冷経熱」というキャッチフレーズは、やや変化の兆しがあるかもしれませんが、中国経済の市場経済化の進展もあり、中国ビジネスはやりやすくなったことは確かな事実です。

しかし、ビジネス感覚という面では、特に日本の中小企業家から、悲喜こもごもの声が聞かれることも又

事実でしょう。中小企業を含めた経済交流が益々大事になると思われただけに、共通の調整・架け橋とか判断尺度が求められるのではないのでしょうか。

「論語とソロバン」つまり、「道徳と経済利益の一致」を終生にわたって標榜したのは、ご存知の渋沢栄一です。士魂商才という言葉とともに、中国の財界でも、今改めて見直されているとインターネットなどでも報じられています。移情閣の施主である呉錦堂は、大正の大富豪である一方、呉錦堂池の灌漑工事などの社会貢献家としても、日中両国で有名です。これは、「儒道」という精神的バックボーンと無関係でないという識者が内外におられます。このあたりも、「論語とソロバン」に有無相通じる思想かと思えます。

ときあたかも、孫文記念館(移情閣)の常設展示が全面的に更新されました。長年の念願が実現し、ご同慶の至りです。貢献された皆様に敬意を表します。展示には新しく孫文の知人の一人として「渋沢栄一」が登場しています。今後、孫文との交流録が詳細に解明されることと存じますが、渋沢の道徳経済合一主義の観点から歴史を読み解くのも一興かと存じます。中国でも文革後、近代化において久しく顧みられる

ことのない「儒教」に再び光が当たり始め、企業活動面では、儒教を経営方針の柱にすえ単なる利潤追求ではなく社会的貢献を目指す「儒商」の存在が注目されているようです。

中国同好会にも「中国経済懇話会」のような枝組織でも創って、草の根の経済交流のあるべき姿などの生の話を聞き、論じるのも面白いかなと存じます。

移情閣の展示新たに
石路(つわ) 光る

中国文化同好会について

毎月第3日曜日に例会を開き活動しています。中国について各方面の専門家・有識者を講師に招き歴史・経済・文学・芸術さらに生活習慣や中国での体験・旅行記等の講演を聴講し、講演の後は講師の先生を囲んで会員同士の親睦・懇親を図っています。同好会の活動の趣旨は草の根運動的な地道な地からの市民レベルで行う国際交流活動に結びつけることと考えております。日本と中国両国の生活・文化の違い等について、より理解と知識を深めつつ私達自身の意識を高め、より生きた活動に展開できることを目指しています。

2007年 移情閣と舞子風景を描く・展覧会 12月14日(金)～18日(火) 於:神戸市立まちづくり会館ギャラリー

来館者カウント 735名

12月16日入賞者表彰式には兵庫県神戸県民局副局長 坂田品一様、重水文化協会会長 堀口四郎様、神戸舞子ライオンズクラブ会長 池田善吾様、福川勝幸委員長をお迎えし、表彰状、トロフィー、盾、記念品授与、作品講評がありました。



入賞者 [一般の部]		入賞者 [子供の部]	
移情閣大賞	正井武男	移情閣大賞	藤原 彩
移情閣友の会会長賞	浦上 君子	移情閣友の会会長賞	鈴木 芽依
孫中山記念会賞	田中武彦	孫中山記念会賞	三 中理央
兵庫県神戸県民局賞	尾崎富士男	兵庫県神戸県民局賞	渡部穂太郎
重水生活文化協会賞	山本 博子	重水生活文化協会賞	渡部 総介
神戸華僑総会賞	前田 定子	神戸華僑総会賞	秋山真佐依
神戸新聞社賞	春上登代子	神戸新聞社賞	藤原 寛樹
山陽電気鉄道賞	西坂久親子	山陽電気鉄道賞	株本 咲
神戸舞子ライオンズクラブ賞	平岩 隆雄	神戸舞子ライオンズクラブ賞	井上 広大
舞子ホテル賞	福永 正	舞子ホテル賞	三 中理央
記念賞	藤山 敏子 山崎康孝	記念賞	高橋星 菜 おくざゆき
砂田 剛一 小島伊知郎 安井益子		藤田 太郎 藤田みく 渡辺大翔 さくがわりよ 谷垣 輝 長峯 令奈 長峯 巳奈 山本紗絵 波田野端 幸尚 港上航太 株本 花 藤澤七望 宮内蒼月 山本雄大 亀井知哉 高橋英行	
塚島民江 林 清美 亀岡邦子			
植野美知子 三木 綾子 豊島進人			
中根寿美子 石川 正成			

